

私はこうして生きてきました 鈴木けんたの歩み、そして考え

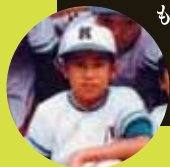
8年間打ち込んだ野球や自衛隊での経験から、チームが団結して力を発揮するために大切なことを学びました。他人に文句や不平をぶつけてばかりいても何も前には進みません。意見が違ったとしても相手の人格は尊重する。対案のない批判ではなく知恵を出し合い、対立とは異なる建設的議論によってみんなで目標に向かっていく。そうやって秋田も前に進めていきます。

●昭和50年大阪府生まれ、小学校から神戸市で過ごす。新聞販売店の息子として、関西人のあこぎな？商慣習を目の当たりにしながら育った。



誕生

●小中高と野球少年。小学校(補欠)→中学校(7番レフト)→高校は弱小進学校だったために投手。高3夏の兵庫県大会は初戦で強豪校にコールド負け…その後京都大学を受験、受かったと思ひ込み下宿を早めに予約するも不合格。浪人生活へ



小中高

●19歳の1月17日、大学入試センター試験の翌朝に阪神淡路大震災発生。ご近所で多数の犠牲者が出るも家族は無事。がれきりから高齢者を3人救出、ご遺体の運搬を手伝うなどの体験をする。



19歳

●大学在学中は、4年間勤めた料亭をはじめ地酒バー、建設現場など多種多様な世界でアルバイト。このとき多くの「現場」で働いた経験は、いまでも現場重視の信念を支えている。



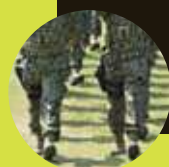
現場主義

●外交官を目指すもかなわず、迷っていたときに自衛隊から「ヘリ体験搭乗」の勧誘ハガキが入る。大震災のときの格好いいイメージもあり、陸上自衛隊に一般幹部候補生として入隊することを決意。



自衛隊へ

●福岡県久留米市の陸自幹部候補生学校で1年間厳しい訓練を受ける。ここで出会った同期生の精強な女性自衛官(秋田市下浜出身)がのちに妻となる。



出会い

●長崎の部隊へ赴任し、平成14年結婚、1年後には長女が生まれるも東ティモールPKO・イラクなど海外派遣や出張が多くあまり一緒に暮らせず。部隊勤務では小隊長として、18~53歳の隊員たちに焼酎を飲まされながら厳しく鍛えられる。



海外派遣

●平成18年退職し、無職となって家族と秋田へ。1年間猛勉強して司法書士試験に合格。秋田で求人がなかったため、一方的に市内の事務所へ手紙を出したところ、幸運にも後継者を探していた岡田事務所と出会い、平成19年就職。



再出発

●ひたすらまじめに働き、平成21年事務所を法人化して共同経営者となり、平成24年代表就任。その後、秋田の人口減少と将来の日本の平和に不安を感じ、政治の世界へ飛び込むことを決意。平成27年統一地方選挙にて初当選。



県政へ

大震災や自衛隊での経験から、「日本の平和と繁栄は世界の中で奇跡的ともいえるほどであり、それを維持するためには多大な努力が必要であること」を身をもって学びました。国際社会は甘くありません。厳しい現実から目をそらさず手を打たなければ、未長く平和を守っていくことなどできないのです。

けんた家の現状

この春に中3長女と小6長男がダブル卒業なのですが、卒業式が議会と重なり出席できないことが多く(涙)またこのチラシが出来上がる頃、長女の受験結果がどうなっていることや…小4次男は引き続き野球部、小2の次女がなんとミニバスケを始め、夫は選●前で役に立たず、夕方の妻のワンオペ送迎が芸術の域に達しています。



鈴木けんた / プロフィール

- ・43歳 小学生4子の父
- ・京都大学法学部卒業 元陸上自衛官
- ・秋田県防衛協会 事務局長
- ・自民党秋田県連 広報委員長兼青年部長
- ・秋田県エアロビック連盟 会長
- ・秋田県ミニバスケットボール連盟 顧問
- ・駅東竿燈会 顧問
- ・秋田市消防団 城東分団員
- ・広面小学校PTA副会長
- ・城東中学校PTA副会長
- ・東部地域振興発展連絡協議会 顧問
- ・広面商工振興会 事務局次長
- ・広面地区体育協会 理事
- ・駅東夏祭り 顧問
- ・秋田県議会防衛議員連盟 事務局長
- ・秋田県議会トラック輸送振興議員連盟 事務局
- ・日本パーテナー協会秋田支部 顧問
- ・スペシャルオリンピックス日本・秋田 顧問

KENTA Report

発行/秋田県議会議員 鈴木健太
〒010-0951 秋田市山王 6-9-19 (事務局)
TEL 018-883-0605 FAX 018-838-0785

鈴木けんた 県政レポート 2019春号 vol.7

ぶっちゃんけ ふりかえり特集

鈴木けんた

自由民主党 秋田県連青年部長
秋田県議会議員



新しい秋田をつくる!

ちなみに4年前のチラシでの「提案」の結果報告・・(無残)

- 転勤族さんの移住促進 →⇒→ 公金を使うルールは厳しく、制度として成り立たない・・
- 空き家に子育て世代を！ →⇒→ 空き家の子育てリフォーム支援策としてかなり違う形で実現！
- 高校スポーツOB大会 →⇒→ スポーツ界、学校関係など色々難しく未着手
- 全国屈指の地酒ミュージアム →⇒→ 勉強会は始めたものの、「で、誰が運営するの？」で停滞
- 内陸線をマタギ鉄道に！ →⇒→ 運営会社が全く違うプランで頑張ろうとしていた・・
- 東北屈指の食品加工場を！ →⇒→ 新たなハコモノ作れるほど新人に力はなかった・・

議員になる前、政治や行政について何も知らずに発案していたことが、現実いかに難しいかをよく学びました。そのうえで勉強し、いろいろ工夫した結果、本誌中面に掲載の「成果ベスト5」を残すことができたわけです…



鈴木けんたのオフィシャルHPはこちら

<http://suzuken-akita.com>

鈴木けんた 検索



平成27年3月発行のチラシ

パフォーマンスでなく結果!

鈴木けんた これまでの成果 ベスト5

いただいた4年間でどれだけ秋田県にプラスの影響を与えられるか?の一点にこだわって活動してきました。

対案なき批判では、いくら叫んでも何も変わりません。行政の立場も理解し、しっかり勉強した上で建設的な提案をすれば前向きに変えられる!4年間やってみてよくわかりました。

第1位 高卒就職生の県内定着促進策の強化!

「2021年までに社会減(人口流出)を半減する」という県の目標を前に、どうせ無理だろうという雰囲気にも覆われていた県政に喝。高卒就職生の県外流出抑制を一例にとり、「無理だ、じゃなくて本気でやるとしたらどうするか」を試算とともに実演。

◎他県に目を向ければ決して無理な水準ではなく、全国平均程度の目標であること、◎大きい全体目標だけでなく時期的・担当別に細かく区分目標を設定しなければ人は動かないこと、◎『個人の自由だから仕方がない』であきらめるのではなく、高校生が「やっぱり県内就職にしよう」と心変わりしやすくなるような努力を全力でやるべきであること、の3点を強く主張しました。

⇒結果 平成30年度から中高生に対する県内企業の説明会などを急増。昨年10月末時点での県内希望率が13年ぶりに70%超え。ただしその後県内就職率が少し下がってしまい、やはり空前の売り手市場である就職戦線、大手企業の募集増に対抗するのは容易ではないと痛感。しかし「いかに考え、何をなすべきか」を県庁と共有できたのは大きな収穫でした。



第2位 第4次産業革命への対応強化!

県の総合戦略「3期プラン」の策定にあたり、世界の急激な変化に対応した内容が骨子案にほとんど盛り込まれていなかったため、一般質問等で再三にわたって発言。人工知能やIoTなど新技術の導入を県内事業者にも周知・普及するための施策を求めました。

⇒結果 「第4次産業革命への対応」が平成30年度スタートの「3期プラン」の1つの柱に。県庁内に「デジタルイノベーション戦略室」を設置、さらに産官学による「デジタルイノベーション推進コンソーシアム」を設立するなど、本腰を入れて県内企業の生産性向上に取り組むようになりました。また県庁自身も、なんと平成31年度からAI(人工知能)で議事録作成を行うことに!2,000時間の作業時間が60%削減(の予定)!



言葉より行動! 議会外でのいろんな活動



消防団城東分団員として、平成29年度秋田市操法大会で優勝!



三皇熊野神社の『三皇祭』には(ほぼ)毎年参加!



あらやの雪まつりにも(ほぼ)毎年参加!



国際教養大学で留学生に「日本の政治」について英語講演



全国地方議員フォーラムでパネリストを務める!



平成30年秋以降、市内24カ所で県政座談会を実施!のべ574人の方へしっかり報告&ご意見をいただきました。



三吉ぼんでん祭では自衛警備隊として運営



3度の大雨災害では市内各所を被害状況視察



農業の現場を勉強(稲刈り・種まき)



県防衛協会の事務局長として自衛隊を全面支援!



駅東羊燈会の顧問として毎年参加!



仲間と結成した中年野球チーム「すこぶるズ」は未勝利!下浜ふるさと野球大会では平成30年夏に満塁被弾!



広面の夏祭りは事務局次長!



持続可能な森林業の可能性調査(秋田市河辺の山林)



子育て雑誌「ワイヤーママ」子育て支援情報を連載!(H28年計12回)

第3位

県が外国人材活用の促進に乗り出した!

人手不足による廃業の増加や災害復旧工事の入札不調など、県内で深刻化する労働力不足。外国人労働に関して国の制度が大きく変化しつつあった平成30年にも、県では動きが全く見られなかった(主體的に所管する課がなかった)ため6月議会一般質問で対応を強く求めました。

⇒結果 平成30年10月に県が「秋田県外国人材活用促進連絡協議会」を発足。各業界団体とともに本格的に外国人材を活用していくこととなりました。まだまだ「制度の周知」「相談機能の強化」といった段階ですが、全くゼロだった県関与の第一歩を進めることはできました。



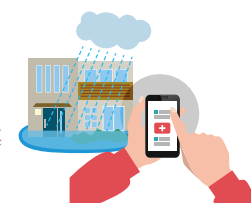
秋田は手詰まりではない!

第4位

SNSによる災害情報発信システムを導入!

平成29年・30年と相次いだ県内豪雨災害の際、市中の被害状況を見て回った際に痛感した「地域の細かい情報が把握できていない」という課題。現代ならツイッターなどのSNSで低コストに情報を収集できるし、県外自治体ですでに採用している例もあるため平成30年6月議会の一般質問で提案。

⇒結果 平成31年度当初予算案に「SNSによる秋田版災害情報発信事業」として採用!デマ防止のため発信元をある程度限定する形で、「〇〇川のどこの地点が溢れそう」「この道は通れない」「〇〇避難所の物資がない」などの細かい情報を公的に収集・発信できる事業が導入されることとなります!



第5位

クルーズ船受入れ態勢の改善

平成27年度から急増した大型クルーズ船の秋田港寄港ですが、当初は「降船客のためのシャトルバスがセリオン行き」「観光案内の通訳が足りない」など残念な対応が目立ちました。その原因は「クルーズ船の受入れ業務は建設部の所管」という役場にありがちな縦割り意識であると感じ、県議会産業観光委員会「観光関係の部局もより積極的に関与すべき」(当たり前だと思いますが...)と強く求めました。

⇒結果 県庁の観光部局が関与を強め、通訳機能の強化、シャトルバスの運行方法の変更、入港日の県立美術館の開館時間の臨機な変更など、対応がめざましく改善。そして平成29年3月、各部局や各部局や官民の各団体などによる「あきたクルーズ振興協議会」が設立されて対応のさらなる強化が図られ、昨年4月にはクルーズターミナルが完成!(これは私の手柄じゃないと思いますが...)

